



【農業列島】 産地ルポ

レタス

JA香川県
仲多度地区

環境に左右されにくく
安定した品質の

「Jブレス」 (編集部)



↑ 仲多度地区管内にある善通寺出荷場。「らりるれレタス」として、東京の市場などに出荷されている。

JA香川県仲多度地区の レタス栽培

JA香川県仲多度地区はレタス総栽培面積20ha、部会員数46名で、平成30年度より約1・5ha「Jブレス」を導入されています。昨今の激しい気象変動に対応するため、多数の品種を導入。「シスコビバ」「レイヤード」「フルバツク」なども栽培されています。

安定した品質と 耐病性を求めて

仲多度地区管内のレタス生産者福崎靖忠さんに「Jブレス」についてお聞きしました。

福崎さんは夏季に米、トウモロコシ、タマネギ、冬季にレタスを栽培されています。レタスの総栽培面積は60a。本年の品種構成は「パスポート」「Jブレス」など3品種ほどで11月末～3月までレタスを出荷されています。

集荷は近くの筆岡出荷場で行い、JAの共選をとおして広島、多摩、仙台

市場などに出荷されています。「Jブレス」導入のきっかけは、7月に仲多度地区で行われたタキイの栽培講習会にて本種を紹介されたことです。同地ではべと病、ビッグベイン病、菌核病などの発生もあり、病害に強い品種を求めています。福崎さんは昨年「レイヤード」を栽培されましたが、すべて同一の品種の方が集約的に管理でき、作業の省力化につながるとの考えから、本作よりこの時期の栽培はすべて「Jブレス」が使われています。

環境に左右されにくく病害 にも強い「Jブレス」

福崎さん圃場の「Jブレス」は9月25日播種、10月15～16日定植。取材に訪れたのは昨年の12月でしたが、暖冬で平年より気温が高めに推移したため、生育は予定の出荷時期よりも1週間ほど前進しているということでした。「Jブレス」の作柄は暖冬の影響で多少の尖り玉が見られるものの、べと、ビッグベインなどの病害にも強く、環境条件に左右されず、安定した品質で収穫できると評価をいただいています。「草勢が強いのでこれからの寒い時期に向けて、馬力を発揮してくれると思います」と福崎さん。「Jブレス」の栽培安定性と低温伸長性に期待を寄せてくださいました。



↑ 9月25～26日播種、10月15～16日定植の「Jブレス」。暖冬のため生育が前進傾向。本作では12月に入ってもしばらくトンネルをかけなかった(撮影12月13日)。



↑ 仲多度地区管内でレタス60aを栽培される福崎靖忠さん。本作は1月どりのレタスを全品種「Jブレス」に切り替えられた。



↑ ご自宅で箱詰め、包装作業が行われるという福崎さん。フィルムに包むときの割れを防止するためトンネルの上で乾かして水分を飛ばしている。



↑ 「環境の変化に左右されにくく、安定した品質でとれる」と「Jブレス」を評価いただいた。